



平成30年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成29年8月9日

上場会社名 株式会社メニコン 上場取引所 東・名
 コード番号 7780 URL http://www.menicon.co.jp
 代表者 (役職名) 代表執行役社長 (氏名) 田中 英成
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役経営統括本部長 (氏名) 太田 章徳 (TEL) (052) 935-1515 (代表)
 四半期報告書提出予定日 平成29年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第1四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第1四半期	18,637	8.6	1,316	17.3	1,462	41.3	1,045	58.5
29年3月期第1四半期	17,155	5.6	1,122	30.8	1,034	14.5	659	41.4

(注) 包括利益 30年3月期第1四半期 1,347百万円(892.4%) 29年3月期第1四半期 135百万円(△80.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第1四半期	59.62	59.02
29年3月期第1四半期	36.01	35.53

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第1四半期	74,191	38,365	51.6
29年3月期	72,336	37,681	52.0

(参考) 自己資本 30年3月期第1四半期 38,295百万円 29年3月期 37,609百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	0.00	—	38.00	38.00
30年3月期	—	—	—	—	—
30年3月期(予想)	—	0.00	—	38.00	38.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	37,294	6.8	1,912	△10.3	1,850	△8.9	1,111	△13.9	63.34
通期	75,823	5.2	4,059	3.8	3,951	△2.1	2,358	△7.3	134.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	30年3月期1Q	18,402,000株	29年3月期	18,402,000株
② 期末自己株式数	30年3月期1Q	857,411株	29年3月期	860,311株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	30年3月期1Q	17,542,509株	29年3月期1Q	18,322,736株

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により上記予想数値と異なる場合があります。業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 金額の表示単位の変更について

当社の四半期連結財務諸表に表示される科目その他の事項の金額は、従来、千円単位で記載しておりましたが、当第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結累計期間より百万円単位で記載することに変更いたしました。なお、比較を容易にするため、前連結会計年度及び前第1四半期連結累計期間についても百万円単位で表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における世界経済につきましては、緩やかな回復傾向にあるもののトランプ米政権の保護主義的な政策や英国のEU離脱問題、北朝鮮の軍事力といったリスクを抱えており、不透明感が残る状況でした。一方、国内経済につきましては、世界経済の緩やかな回復を背景とした輸出の持ち直しを受けて、景況感に改善の兆しが出ております。

国内コンタクトレンズ市場につきましては、ディスポーザブルタイプコンタクトレンズやカラーコンタクトレンズが市場を牽引し、シリコーンハイドロゲル素材レンズの上市が続いております。海外コンタクトレンズ市場につきましては、米国を中心としてディスポーザブルタイプコンタクトレンズの需要が増加しており、中国では睡眠中に装用することで近視矯正効果のあるオルソケラトロジー用のレンズの需要が増加しております。

各事業の状況は、以下になります。

[国内コンタクトレンズ事業]

ユーザーの瞳の安全と当社の収益安定に貢献するメルスプラン事業の更なる拡大に引き続き努めてまいりました。需要期である新入学の時期に併せて、学生応援キャンペーンや会員紹介キャンペーンなどの販売促進活動を実施し、初めてコンタクトレンズを利用するユーザーの新規会員獲得に注力いたしました。商品政策といたしましては、1日使い捨てコンタクトレンズ「Magic」に加え、昨年12月発売のシリコーンハイドロゲル素材「1 DAYメニコン プレミオ」の好調な販売により、順調に1日使い捨てコンタクトレンズユーザーを獲得しております。チャネル強化策といたしましては、直営店の店舗改装や路面店への移転などリニューアルを順次拡大しております。プロモーション活動といたしましては、当社独自の技術である、コンタクトレンズの内面に触れずに瞳に装用できる「SMART TOUCH (スマートタッチ)」のテレビコマーシャルを実施し、1日使い捨てコンタクトレンズユーザーの獲得を強化いたしました。また、全社リブランディング戦略として、商品パッケージやホームページを刷新し、販売店のリニューアルと合わせ、新しいメニコンブランドの展開を進めております。

[海外コンタクトレンズ事業]

ディスポーザブルタイプコンタクトレンズの海外向けオリジナルブランド「Miru」の浸透に引き続き努めてまいりました。1日使い捨てコンタクトレンズ「1day Miru Flat Pack」、1ヵ月交換タイプコンタクトレンズ「1month Miru」、1ヵ月交換タイプ乱視用コンタクトレンズ「1month Miru for Astigmatism」、1ヵ月交換タイプ遠近両用コンタクトレンズ「1month Miru Multifocal」とそのプライベートブランド製品を中心に販売拡大に努めてまいりました。今後も、「Miru」シリーズの普及と拡大を進めてまいります。北米・欧州では、ディスポーザブルタイプコンタクトレンズの販売を強化し、新規チャネルの開拓と製品の拡販に取り組みました。アジアでは、オルソケラトロジー用のレンズの販売にて、中国における事業基盤の拡大に努めております。

[その他事業]

グループ会社である株式会社メニワンでの動物用医療機器や犬猫用のサプリメント及び当社環境バイオ事業での稲わら分解促進剤の販売が堅調に推移いたしました。この他にも当社ライフサイエンス事業部において、不妊治療支援サプリメントやラクトフェリンを主成分としたサプリメントを販売しております。

このような状況の下、当社グループの当第1四半期連結累計期間の経営成績につきましては、メルスプランの会員数が増加したことにより売上高は18,637百万円(前同四半期比8.6%増)となりました。また、販売費及び一般管理費の効率的使用にも取り組みました結果、営業利益は1,316百万円(前年同四半期比17.3%増)、経常利益は1,462百万円(前年同四半期比41.3%増)となりました。以上の要因により親会社株主に帰属する四半期純利益は1,045百万円(前年同四半期比58.5%増)となりました。

今後も当社グループは瞳の安全を最優先に考え、より良い視力の提供を通じて広く社会へ貢献することを目標に事業基盤の更なる拡充、拡大に努めてまいります。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①コンタクトレンズ関連事業

コンタクトレンズ関連事業は、主にメルスプランの会員数の増加と前年第3四半期連結会計期間に株式会社エーアイピーを連結子会社としたことにより、当第1四半期連結累計期間につきましては、売上高は18,306百万円(前年同四半期比8.6%増)となりました。

②その他

その他事業は、グループ会社である株式会社メニワンの動物医療事業売上高が前年同四半期連結累計期間と比べて伸長したことを受け、当第1四半期連結累計期間につきましては、売上高は333百万円(前年同四半期比8.8%増)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末において総資産は74,191百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,855百万円の増加となりました。流動資産は主に現金及び預金が増加したことにより、1,509百万円増加し34,892百万円となりました。また、固定資産は主に機械装置及び運搬具が増加したことにより、345百万円増加し39,299百万円となりました。

(負債及び純資産の部)

負債は主に短期借入金が増加したことにより、前連結会計年度末に比べ1,171百万円増加し35,825百万円となりました。

また、純資産は主に利益剰余金が増加したことにより、前連結会計年度末に比べ684百万円増加し38,365百万円となりました。

この結果、自己資本比率は51.6%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第1四半期連結累計期間の業績につきましては堅調に推移しておりますが、第2四半期連結会計期間以降に製品販売強化を目的とした販売促進費の発生が見込まれるため、平成30年3月期の第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想につきましては平成29年5月11日に発表したものから修正はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,656	14,076
受取手形及び売掛金	8,064	7,928
商品及び製品	7,718	8,162
仕掛品	561	510
原材料及び貯蔵品	1,960	1,968
繰延税金資産	752	541
その他	1,745	1,781
貸倒引当金	△75	△77
流動資産合計	33,382	34,892
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	19,078	19,466
減価償却累計額	△9,695	△9,881
建物及び構築物(純額)	9,383	9,585
機械装置及び運搬具	22,311	23,475
減価償却累計額	△13,896	△14,377
機械装置及び運搬具(純額)	8,415	9,098
工具、器具及び備品	6,452	6,640
減価償却累計額	△5,184	△5,346
工具、器具及び備品(純額)	1,268	1,294
土地	5,969	5,980
リース資産	999	999
減価償却累計額	△706	△722
リース資産(純額)	292	276
建設仮勘定	2,209	2,042
有形固定資産合計	27,538	28,278
無形固定資産		
のれん	4,741	4,487
特許権	1,750	1,688
その他	2,229	2,154
無形固定資産合計	8,721	8,330
投資その他の資産		
投資有価証券	598	618
長期貸付金	93	87
繰延税金資産	110	85
その他	1,903	1,910
貸倒引当金	△11	△11
投資その他の資産合計	2,693	2,690
固定資産合計	38,953	39,299
資産合計	72,336	74,191

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成29年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,292	4,529
短期借入金	669	3,329
1年内償還予定の社債	1,473	1,585
1年内返済予定の長期借入金	2,142	2,043
リース債務	67	82
未払金	3,740	2,246
未払法人税等	709	299
賞与引当金	1,404	681
ポイント引当金	95	98
その他	2,295	4,070
流動負債合計	16,889	18,965
固定負債		
社債	7,948	7,625
長期借入金	7,282	6,749
リース債務	203	171
長期未払金	1,539	1,528
退職給付に係る負債	315	317
繰延税金負債	180	177
資産除去債務	111	102
その他	182	187
固定負債合計	17,764	16,860
負債合計	34,654	35,825
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,379	3,379
資本剰余金	2,553	2,553
利益剰余金	35,112	35,489
自己株式	△2,640	△2,631
株主資本合計	38,405	38,790
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	70	84
為替換算調整勘定	△866	△579
その他の包括利益累計額合計	△795	△494
新株予約権	35	33
非支配株主持分	35	36
純資産合計	37,681	38,365
負債純資産合計	72,336	74,191

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
売上高	17,155	18,637
売上原価	7,927	8,598
売上総利益	9,227	10,038
販売費及び一般管理費	8,104	8,722
営業利益	1,122	1,316
営業外収益		
受取利息	1	0
受取配当金	3	3
為替差益	—	88
受取賃貸料	62	27
訴訟関連債務戻入益	26	—
その他	34	114
営業外収益合計	128	235
営業外費用		
支払利息	61	52
持分法による投資損失	1	1
為替差損	95	—
賃貸収入原価	17	8
デリバティブ評価損	—	19
その他	39	8
営業外費用合計	215	89
経常利益	1,034	1,462
特別利益		
補助金収入	100	100
特別利益合計	100	100
特別損失		
固定資産売却損	—	1
固定資産除却損	9	11
投資有価証券評価損	12	—
特別損失合計	22	12
税金等調整前四半期純利益	1,112	1,549
法人税、住民税及び事業税	51	277
法人税等調整額	400	224
法人税等合計	452	502
四半期純利益	659	1,046
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	0
親会社株主に帰属する四半期純利益	659	1,045

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)
四半期純利益	659	1,046
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△6	14
為替換算調整勘定	△515	287
持分法適用会社に対する持分相当額	△1	△0
その他の包括利益合計	△524	300
四半期包括利益	135	1,347
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	135	1,346
非支配株主に係る四半期包括利益	—	0

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	コンタクトレンズ 関連事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	16,848	16,848	306	17,155
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	2	—	2
計	16,850	16,850	306	17,157
セグメント利益 又は損失(△)	2,133	2,133	△73	2,059

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、新規事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,133
「その他」の区分の利益	△73
全社費用(注)	△937
四半期連結損益計算書の営業利益	1,122

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント		その他 (注)	合計
	コンタクトレンズ 関連事業	計		
売上高				
外部顧客への売上高	18,303	18,303	333	18,637
セグメント間の内部 売上高又は振替高	2	2	—	2
計	18,306	18,306	333	18,640
セグメント利益 又は損失(△)	2,447	2,447	△83	2,364

(注) 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、新規事業を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:百万円)

利益	金額
報告セグメント計	2,447
「その他」の区分の利益	△83
全社費用(注)	△1,047
四半期連結損益計算書の営業利益	1,316

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。